

小学校英語教育の2020年度全面実施に向けた取り組み

和歌山大学教育学部 尾上 利美

来年度（2020年度）より、新しい小学校学習指導要領が全面実施となる。外国語活動の低学年化、高学年での外国語の教科化など、小学校英語教育は大きな転換期にある。このような中、小学校英語教育の準備を進め、また充実をはかるためにも、大学と小学校が共同で「外国語の授業づくり」のために知恵を出し合うことに大きな意義を感じている。藤戸台小学校の先生方の授業づくり、そして子供たちの学習の様子からも多くを学んだ1年間の取り組みであった。

和歌山市立藤戸台小学校（外国語活動）

1. 動機

2020年度から新学習指導要領に基づき、外国語活動・外国語科が本格実施される。そこで来年度に向け、本校では外国語活動の教科部会を今年新たに設置した。本校は各教科部会に分かれ、月1回学習会や指導案検討会を行っている。教師の指導力向上を目的とし、部会ごとに助言の先生を決め、年間を通してアドバイスをいただいている。そこで、貴校の尾上利美准教授に年間アドバイザーとしてご助言いただきながら、外国語活動の教材研究や教科化に向けた授業づくりを行おうと考え、共同研究事業に参加した。

2. 事業内容と感想

（1）外国語活動で使えるアクティビティ紹介

本校では3・4年の外国語活動を各担任が指導する。しかし若手教員が多いため、外国語活動の指導経験があまりない。そこで第1回の部会では、どの単元でも使えるアクティビティを尾上先生に紹介していただいた。3・4年の先生を中心に10人程が集まり、活動を体験した。ミッシングゲームやドン・じゃんけん等、児童が英語に楽しく慣れ親しめる活動なので、実際の授業にも役立てることができた。

（2）校内公開授業の助言

4年生の担任が校内公開授業を行う際、指導案や本時の活動内容を検討し合った。教材はLet's Try! 2 Unit5 Do you have a pen? である。担任は、英語に苦手意識を持っている児童でも英語でやり取りできるよう工夫したいと考えていた。そのため、筆箱の中身で足りないものを友達に借りに行くという、英語を使う必然性のある場面設定をした。また、グループで協力してやり取りの練習ができるよう、助言を受けながら授業展開を考えていった。助言を受けたことによって、担任は授業の具体的なイメージを持ちながら指導することができ

た。さらに、尾上先生に本時を参観していただき、後で授業についての協議会を持てたことも次の取組につながった。

(3) 和歌山大学の留学生との交流会

6年生の校内公開授業を専科教員が行った。We Can! 2 Unit2 Welcome to Japan! を題材に、自分達の住んでいる和歌山県の市町村をALTに紹介するという単元を作成した。授業者が担任ではないため、他教科と連携した取り組みができないことが課題であった。児童に負担なく和歌山県について調べたり、紹介スライドを作成させたりするにはどうすればよいか、相談させていただいた。また、今回は即興性のある英語でのやり取りを行わせたかったので、どのように児童に話し合わせるかアドバイスをいただいた。その結果、本時では児童が原稿通りに和歌山について紹介するだけでなく、質問や感想を交えたり、写真を指差しながら紹介したりする様子が見られた。

さらに、5クラスの中から代表1クラスを和歌山大学に連れていき、留学生との交流会を行った。普段外国の人と交流することがないため、児童にとって英語を使ってやり取りできるよい機会になった。英語で話した内容が留学生の人たちに上手く伝わったため、児童の自信にもつながった。また、交流会に尾上先生も来てくださった。児童に声かけをしたり、発表の様子をビデオで撮ったりしてくださった。

(4) 藤戸台小学校教育研究発表会の助言

2月1日に行われる本校の研究発表会に向けた協力者会に参加していただき、ご助言いただいた。5年生のWe Can! 1 Unit7 Where is the treasure? を題材に、専科教員が研究授業を行う。来年度の教科化が目前に迫って来たので、「読む」「書く」の領域も取り入れた活動を考えた。しかしそのため、活動のルールが複雑化してしまった。児童が活動内容を理解できるよう、スモールステップを意識した単元構成を一緒に考えていただいた。また、児童が道案内を聞く時に道順が辿りやすくなるよう、駒代わりに使う指人形を貸していただいた。実際児童に使わせてみると、楽しそうに左右間違うことなく動かす様子が見られた。

3. 今後の展望

今年度は、新学習指導要領への移行期間だったため、児童の実態と教材内容にズレがあり、難しさを感じるが多々あった。そんな中、1年を通して尾上先生にご指導いただけたことが、児童の実態に合った教材・授業づくりに大いに役立てることができた。しかし、外国語活動・外国語科が約2か月後には本格実施となるにも関わらず、未だに外国語への関心が本校では低いように感じる。実際、公開授業や部会に参加する教員は5、6人とどまっている。また、外国語科の評価についても不透明な部分が多く残っており、3段階評価をどのように行えばよいか課題が残る。来年度も、引き続き尾上先生にご指導いただき、もっと外国語活動・外国語科の指導法等について本校一丸となって研鑽を重ねていきたい。